

1. 事業名

牧野植物園新研究棟の整備による交流人口の拡大と研究の見える化事業

2. 事業概要

現在の研究施設（資源植物研究センター）を建て替えて、新しい研究棟を建築し、「知（イノベーション）の拠点」として研究機能の充実、深化を図ることで、世界に誇る総合植物園にふさわしい研究施設とし、高知県の産業振興に貢献するとともに、研究機能の見える化により未来を担う子どもたちの植物研究に対する興味を喚起させ、高知県の教育に貢献する。

また、最上階に、園地を眺めながら食事ができるレストラン及びショップを配置し、誘客を図ることで県の観光振興に資する。

3. 新研究棟の建築概要

（１）建築規模

3階建て 約1,600m²

（２）整備内容

新研究棟は、「植物分類学と有用植物学の融合」「外部研究者との交流」「研究の見える化」という3つの観点を基本に一般来園者にも開かれた研究施設として整備し、レストラン・ショップを併設することで、さらなる誘客を図る。

①「植物分類学と有用植物学の融合」

牧野植物園は植物分類学、有用植物学の研究機能を有しているが、それぞれが別々の建物にあり、強みを生かし切れていない。両部門を新研究棟の同じフロアに結集することで互いに刺激し、研究の深化、促進を図ることで植物研究を推進する。

②「外部研究者との交流」

外部の企業、大学等に貸し出しを行うジョイントラボを設置し、積極的に外部の研究者を受け入れることで、共同研究による研究の充実と成果につなげる。

③「研究の見える化」

植物園でどのような研究活動を行っているかを県民に知ってもらい、植物学や植物研究の意義を伝えるため、新たな研究棟は実験室を原則として可視化する。また、研究内容のパネル展示を行うスペースを設け、キッズラボでは、主に子どもたちを対象に植物を使った理科教室（学習プログラム）を行う。

④「レストラン・ショップの併設」

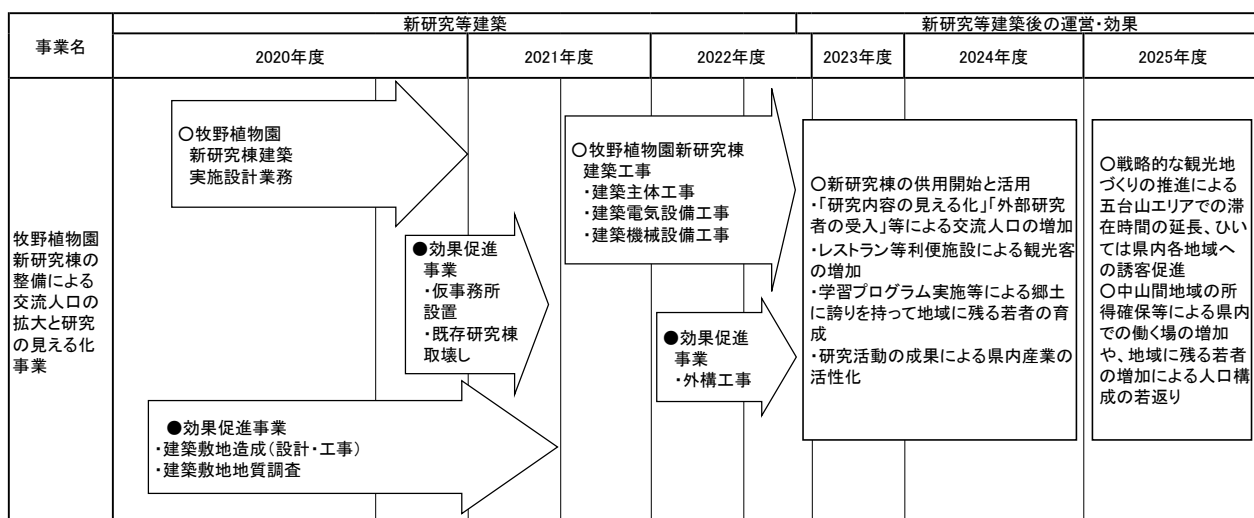
新たな研究棟内に60席規模のレストランを整備し、南園を見下ろす眺望を生かし、昼間、夜間開園時ともに、園地を眺めながら食事ができるレストランとして団体客をはじめとした誘客を図る。また、出入口付近にはショップを併設し、相乗効果による利用者の増加を促す。

さらに、五台山エリアにおける周辺施設との回遊性向上を図り、誘客に資するため、別途整備予定の竹林寺との間の緑地広場につながる新たな出入口を設ける。

新研究棟完成イメージ図



4. 整備スケジュール（予定）



5. KPI(重要業績評価指標)

	KPI	単位	R元年度 (事業実施前)	R2年度 増加分	R3年度 増加分	R4年度 増加分	R5年度 増加分	R6年度 増加分	KPI増加分 の累計
1	牧野植物園及び竹林寺の 合計入場者数	千人	358	0	0	0	30	15	45
2	農家等との栽培試験委託 件数	件	6	0	0	0	2	2	4
3	レストラン及びショップ の利用者数	千人	36	0	0	0	6	12	18
4	学習プログラムの参加者 数	人	1,779	0	0	0	360	360	720